

肌感 hadakan 第5回：1月26日（土）

第5回 ケイオス澤田充さんと行く中之島と…

[トップ](#) >> [創造人を肌で感じるツアー ～肌感 hada kan～](#) >> 第5回 ケイオス澤田充さんと行く中之島と…



ツアーレポート

1月26日（土）に催された澤田充さんのツアーの様子をご紹介します。

※画像はクリックすると拡大します

[澤田さんプロフィールとツアー概要はこちら](#)

こだわり満載の応接部屋は…

集合場所は、北浜の大阪証券取引所ビル。一行はまず、土佐堀川に面したビルにある澤田さんの会社「株式会社ケイオス」をお訪ねしました。通されたのは、10人ほどが座れる応接部屋。なぜか入口のドアは、大人なら屈んで出入りしなければならない小さめサイズです。

登場した澤田さんから、まずはドアの謎解きが。「世の中、便利なものが多すぎませんか？ 不便さや面倒臭さを感じるこそ大切だなと思って、あえて不便につくりました」。

かく言う澤田さん、昨年、慌ててうっかり頭を強打し、痛みのあまりのたうちまわったそう。「調子に乗ったらあかん、注意せえよ、という戒めのメッセージと受けとめてます」。



大阪証券取引所



澤田充さん。社名と同じ「CHAOS」という伊ワインを手



応接部屋のドアはこんなサイズ

そんな危ういドアのほかにも、一見シンプルなのにこの部屋には澤田さんのさまざまなこだわりや工夫が。たとえば、10脚ある椅子は1脚ずつ異なるデザイン。なのに全体としては不思議と落ち着いた印象に。理由は「すべて一人の作家さんが作っているから」。さらに、「共通する要素がある2脚を対面になるように配置しているんです」。さすが！

飾り棚の上には地球をかたどったサッカーボール。「南半球を上にして置いています。そもそも地球には上も下もないのに、地球儀のほとんどは北半球が上。誰が決めてん?と思って」。いきなりの弾丸トークが一段落したところで、一同を見まわし「ね、ややこしいおっさんでしょ?」。まだすこし緊張気味だった一行から笑いが起きてぐっと和やかな空気に。

「くものごとを一から考える」というのは、既存概念からスタートすること。そうではなく、僕はくゼロから考える」。いつのまにか自分を縛っている慣れ、常識、決めつけ。それらを振り捨て、ゼロになるための仕掛けを、澤田さんはご自身の身近に施していらっしゃるんですね。



上下がない地球のサッカーボールを手



玄関には奇妙な呼び鈴も

せんばことばのウォールアートから 謎めいた路地「浮世小路」へ

澤田さんが会社を創業したのは今の場所より少し南の平野町。「北船場との関わりはただか20年のよそ者ですが、すっかりこのあたりが気に入って、まちの一員として何かお役に立ちたい」と立ち上げたのがまちの魅力を発信する「北船場くらぶ」。その取り組みの一つ「せんばことばのウォールアート」を見に、オフィスを出て三休橋筋を南へ向かいます。

今橋通に建設中のマンションの仮囲いに、「いとさん、こいさん」「おおきにはばかり」といった船場ことばが、パッと目を引くデザインで書かれています。「せんばことばは、日本語の中でいちばん美しい、格調高い、音楽を聴くようになめらかだと賞賛されたことばです」という誇らしげな解説も。「大阪の暮らしや習慣を伝承するく伝統を守る なにわの会」さん、建設会社さん、デザイナーさんなどの協力で実現しました。無機質な工事現場の塀を活かすアイデアも、遊び心と合理性を兼ね備えた大阪らしい発想です。



せんばことばのウォールアート



北船場ウォールアートプロジェクトについて語る澤田さん

今橋通の一つ南は、正式な通りの名前がなく、通称「浮世小路」。ここで澤田さんから参加者にクイズの出題が。「北船場の通りの中でここだけひっそりと道幅が狭く、車も通らない。どうしてだと思います?」。商人の町・船場は、通りを挟んで向かい合った面が同じ町名になる「両側町」という合理的な町割り。なのに、ここだけは両側町にもなっていないそう。「実は、船場の旦那衆の浮世な場所だったから」なんだとか。はじめて知るまちの密やかな歴史に「なるほど」「どうりで」と納得です。その浮世小路は、「このサイズ感がちょうどいい」と澤田さんお気に入りの道。浮世小路を通過して堺筋へ出て、周囲に点在する歴史建築の話題にも触れながら中之島方面へ。



歩道の銘板に艶っぽい女性の姿が



「このサイズ感がええねん!」



浮世小路を東へ

100年後に残る駅の風景 京阪中之島線の新駅プロデュース

「このまちのビューポイント」。そう言って澤田さんが立ち止まったのは、難波橋の南西のたもと。ライオンの足元から張り出したバルコニーの角に立ち、川畔のカフェ越しに見る中央公会堂方面の眺めがベストだとか。

なにわ橋を渡って河畔の遊歩道をしばらく歩くと、土佐堀川を挟んだ向かいが先ほどお邪魔した澤田さんのオフィス。執務室のデスクからは真正面に中央公会堂が望めるそうです。「風景からもらう“気”がある。そういう環境で仕事をするのは大事ですよ」。



すぐ下を走るのは京阪電鉄の中之島線。なにわ橋駅から終点の中之島駅までの4つの新駅は澤田さんのプロデュースです。なにわ橋駅の入口で、コンセプトづくりのお話。

「駅一つの風景である」「100年後のストックをつくる」との思いをベースに、通路やホームの壁面には日本人が慣れ親しんだ無垢の木材をふんだんに使っているそうです。地下駅では初のこの試みは、木材を不燃材にすることが可能になった技術の進歩によるところも大きいそう。変色や退色を危惧する声に対し、澤田さんは「経年進化と捉える。それこそが時代の刻印では？」と周囲を説得したとか。

ホームの壁面は4駅それぞれに異なるデザイン。煉瓦造りの中央公会堂に近いなにわ橋駅は煉瓦×木、石造りの日本銀行にちなんで大江橋駅では石×木、フェスティバルタワーに隣接する渡辺橋駅はモダンに金属×木、終点・中之島駅は象徴的にすべて木、というように。「物をつくる人間はそこまで考える。それが出来上がったものの厚みになる」と澤田さん。

4駅すべてが中之島にあるため、終点の駅名にも賛否がありました。でも、あくまで澤田さんは終点=中之島にこだわったそう。「終点の駅名は大阪の象徴。京都発の列車に〈中之島行き〉と表示させる。そこは絶対ゆずれませんでした」。



大切にしている人との縁、つながり

次に澤田さんが連れて行ってくださったのは、店舗用照明器具メーカーのマックスレイ株式会社。なにわ橋駅から京阪電車に乗り、京橋駅から歩くこと15分。安藤忠雄さん設計の自社ビルで、山本社長と商品研究所の谷田さんが迎えてくださいました。一行は澤田さんについてやや緊張しながら社長室へ。

澤田さんと山本社長はお仕事上の取引ではなく、知人の紹介で知り合って「なんとなく肌が合う」おつきあいが続いているそうです。谷田さんは、同社が主催するトークセッション「Linxcrossing (リンクロッシング)」のご担当。多彩な分野から講師を迎え、2010年から開催しているこのイベントには、澤田さんもこれまでに2度、講師として参加しているそう。「最近では終了後の鍋会にだけ駆けつけることも。そこでの話や交流がおもしろくてすごく刺激になるんで」と澤田さん。澤田さんとお二人との会話の中には、たくさんの固有名詞が飛び交い、まさに人と場がリンクし、クロスしているさまを見るようです。

昨夏、澤田さんが開催した「北船場茶論」。その冊子の背表紙はマックスレイさんの広告です。実は、予定の広告が直前になって飛んでしまい、困った澤田さんが山本社長に泣きついて急遽出稿してもらったとか。山本社長も太っ腹ですが、そんな関係性を築ける澤田さんもすごいですね。



マックレイさんを訪問



山本社長（右）と谷田さん（左）



新製品「陰影IN-EI」は三宅一生デザインの折りたためる不織布のライト

土佐堀川にかかる名も知らぬ橋で

澤田さん好みの路地裏づたいに京橋駅まで戻り、再び京阪電車に乗って終点の中之島へ。車中でも澤田さんの熱いトークは続きます。大江橋、渡辺橋と新駅に着くたび、先ほどお話を伺ったホームの壁面デザインを確認しながら中之島駅に到着。



中之島駅のホームの壁はすべて木

リーガロイヤルホテルのちょうど裏手、土佐堀川に名前もわからない小さな橋が架かっています。ここは6～7年前、澤田さんが中之島の駅のコネプトを作るために歩いていて発見し、以来、時折り訪れる隠れ家的な場所。「充電と放電を切り替える場所。一人でぼんやりと考えるために来ます」。やはりこちらも橋幅が狭く、ヒューマンスケールな佇まい。陸橋のように階段で上がる造りになっていて、車が通らないので橋の真ん中に立ってあたりを眺めることができ、たまに人が通るのもお気に入りとか。

北東方面には中之島から梅田一帯の巨大なビル群が広がっています。「ヒューマンサイズのこの橋から、あちら側の都会のビル群を眺めるというのもなかなかいい」。夜景をバックに語る澤田さんのお話は、次第にご自身のものづくりへの思いへ。「飲食店をつくるときも、人の心地よさを大切にしたい。気持ちよく酔って店を出たあと、そのまま気持ちよくまちに溶け込めるような造り。でないと、人は無意識のうちに何かしらダメージを受けると思うんです。そういう感覚を忘れずにいたい」。寒さも忘れて引き込まれ、みんな熱心に聞き入っていました。



「長いときは小一時間いることも」



「車が通らないから橋の真ん中に立てるでしょ」



「階段を上ってきたときに徐々に見えてくる路面が水平線のように・・・」

熱い大将がいる薩摩居酒屋へ

“解き放たれる”時間

土佐堀川の小橋をあとに、江戸堀を抜け、京町堀を東へ、東へ。次はお待ちかねのバルタイムです。澤田さんは、まち歩きと食べ歩き・飲み歩きを融合させた“バル遊び”の提唱者。普段どんなお店で飲んでいらっしゃるのか、みんな興味津々です。澤田さんの足どりも、なんだか一段と軽やかなよう・・・。



足どり軽く京町堀を東へ



鹿児島かのや篠原

辿り着いた「鹿児島かのや篠原」は、澤田さんが立ち上げに関わった薩摩料理店。鹿児島をこよなく愛する大阪人の大将が、生産者との熱い交流の中で培った味と技でもてなしてくれます。「この大将、濃いでしょ？ この店には、大将との接近戦の会話が楽しみで通っているようなもの」と澤田さん。大将の顔が

見える1階のカウンター席は10席。こちらまた澤田さん好みのサイズ感！ 「仕事終わりのバルは、いろいろな困難と闘う中で、自分を健全に保つための“解放”の時間。ここでは何も考えません」。週の半分はお気に入りのどこかの店で自分自身を解き放っているそうです。

「初めて行ったお店では、まず来ているお客様の表情を見る」と、いい店を見極めるワザをこっそり。「99%出来上がったときに、残りの1%を50%のつもりで取り組み！」とは、いい仕事をするための極意。「万人に理解されなくてもいいから、いつか思い切り毒づいたものをつくってみたい」「いかに自分を飢餓状態に置くかが今の課題」などご自身の思いも含め、心地よい焼酎の酔いに解き放たれながら、ここでもいっそうオープンに濃密に語っていただきました。「今日はこんなに丸裸にされて、こっぴどかし〜」と恨み言をおっしゃりながらも、「楽しいから、ま、いっか！」と澤田さん。



カウンターで。「関わったお店にはみんなハッピーになってほしい」



大将も熱い！



焼酎はさすがの品揃え



手づくり、揚げたてのさつま揚げ！

その果てしないサービス精神に、<人が集まる場所やまちをつくる人>の神髄を見た思いがする今回のまち歩き。根底にある思索の痕跡もしっかりと開示していただいた濃密な時間はとても貴重です。本当にありがとうございました！



番外

ツアーはここで終了でしたが、宴の熱気は冷めやらず、バル遊びの基本にしたがって一行は澤田さんに付き従って一人も欠けることなく2軒目へ。澤田さんプロデュースの人気バル「エルポニエンテ・カルボン」のレジカウンターに強引に作ってもらった即席立ち飲み席で、夜がふけるまで盛り上がりました…

ツアー概要

このページの情報は、終了した事業に関するものです。

今回の創造人は、「淀屋橋WEST」、「イーマ」など多数の新しい商業施設のプロデュースを手がける澤田充さん。

～永遠に完成しない街づくり～をテーマに、今までになかったものを形にする、まさに街づくりの仕掛け人。

全国を飛び回る澤田さんが愛してやまない北船場から始まり、お気に入りスポットへ。

そして、澤田さんのこだわりが随所に見られる京阪中之島線にゆられて、

刺激的な日常をのぞき見しましょう。仲良しの社長さんに会いに行ったり、あんなところから、こんなとこまで…。最後は、もちろん、大好きなバルでお酒を飲みながら語らしましょう。

人とまちを繋げる～澤田流大人遊び～を体験してみませんか？

内容	澤田流まち散策と飲食店での語らい（予定）
日時	2013年1月26日（土） 14:00集合（北浜駅／大阪証券取引所1階正面玄関） 19:00頃解散（淀屋橋周辺 EL PONIENTE CARBON）
定員	5名（20歳以上の男女）
料金	3,000円＋飲食費実費（4,000円程度）
注意事項	1. 飲酒をとまなうツアーのため、お車でのお越しはお控えくださいませ。 2. 参加費は事前に銀行振込、飲食費は各店舗で実費精算となります。 3. 雨天決行

	<p>4. 申し込みは定員になり次第締切らせていただきます。</p> <p>5. 内容は変更する場合がございます。</p> <p>振込口座等の詳細は、お申し込みいただいた際にお知らせいたします。</p> <p>その他、ご不明な点はセンターまでお問い合わせください。</p>
申込方法	定員に達したため、締め切りました

▼ 澤田 充 (プロデューサー/株式会社ケイオス代表)



商業施設開発や街の活性化のプロデューサー。

主な実績として、「淀屋橋WEST」、「淀屋橋odona」、大阪梅田都心型商業施設「イーマ」、東京丸の内東京ビルディング・商業ゾーン「トキア」、京阪電気鉄道「中之島線4つの新駅プロデュース」など多数。

また、大阪市の都市再生に関するアドバイザーや街づくり、社会動向やマーケットに関連する雑誌コラム執筆や地方自治体や民間企業からの講演、ラジオのコメンテーターとしての活躍。「ガイアの夜明け」やNHKや民法の特集などで取り上げられるなど、テレビ、ラジオ、雑誌、新聞でも活躍している。

[過去の肌感についてはこちら](#)

<p>サイトポリシー・プライバシーポリシー</p>	<p>> enocoについて</p> <p>> 事業紹介</p> <p>> フロアガイド</p> <p>> レンタルスペース</p>	<p>> お知らせ・プレスリリース</p> <p>> メルマガ登録</p> <p>> ニュースレター</p> <p>> お問い合わせ</p> <p>> アクセス</p>	<p>Like 0</p> <p>ツイート</p>	<p>^</p>
<p>指定管理者</p>				
<p>バナー広告募集</p>				